

★中央アジアですすむ国際関係の雪解け＝キリル・ノルザーノフ

2019 年は中央アジアで最も出来事の多い年になるでしょう。その特徴は地域の国際関係の雪解けです。国内に諸課題は残っていますが、地域主義を強化することにより、外部からの影響を受けずに内部の紛争を解決することができるようになるでしょう。

ウズベキスタンは2018年、地域の新しい流れをつくる主要な国になりました。ミルズィヤエフ新大統領は政権を固め、中央アジアで最も人口の多いこの国の社会と経済を開放する改革プログラムを進めました。これらの改革が政治的自由の拡大につながるのか、それとも単に権威主義体制の改善にとどまるのかはわかりません。



長期にわたった前任のイスラム・カリモフ政権下では、周辺諸国との関係は孤立と疑念、辛辣さが特徴でしたが、ミルズィヤエフ大統領の外交政策はカビの生えた前任者の政策を変えました。ミルズィヤエフ大統領は地域諸国との関係正常化のプロセスを「20年の氷を溶かす」ことに例えました。事実上の冷戦状態に閉じ込められていたウズベキスタンとタジキスタンとの外交関係を迅速にかつ包括的に和解させることなど2年前には予想もできなかったことです。

それが今年是对立の雰囲気は霧消しました。貿易と政府間の交流が盛んになりました。戦略的協力と友好、兄弟愛といった言葉があふれました。何十年

にもわたる不作為の後、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンの間で厄介だった国境画定のプロセスが勢いを増し始め、カザフスタンは近隣諸国との国境問題をすべて解決したと発表しました。

2 国間関係の改善は、地域における多国間関与への道を開きました。2018 年 3 月、中央アジア 5 カ国の非公式サミットが 15 年振りに、カザフスタンの首都アスタナで開催されました。協力が現在しっかりと制度化されたとみるのは早計ですが、カザフスタンのナザルバエフ大統領（当時）は会議について、中央アジア諸国が集团的にそして第三者とは関係なく域内問題に対処できる兆候だと説明しました。サミットは毎年恒例のイベントになる予定です。

カザフスタンとウズベキスタンは今年、国際関係で優れた力を発揮し、それぞれロシア、中国、西側の間で慎重なバランスを保っています。カザフスタンは 2017 - 18 年に国連安全保障理事会の非常任理事国を務め、アジアやアフリカにおける核不拡散、戦略的安定、紛争解決などの問題で大国の動きの調和を推進しました。

カザフスタンはその他、米国にたいしアフガニスタン駐留部隊むけの物資供給に国内の港湾の使用を許可しました。同時にカスピ海の法的地位に関する条約に署名しロシアと協力しました。この条約は地域でのさらなる米軍駐留の可能性を除外しています。

ウズベキスタンのミルズィヤエフ大統領は、北京、モスクワ、ワシントンに国の魅力を盛んにアピールし、数十億ドルの投資を引き出しましたが、厄介な地政学的義務はなにも引き受けませんでした。ウズベキスタンはアフガニスタン問題の国際会議を主催して成功させ、アフガニスタンの平和確保での誠実な仲介役の地位を確立しました。

中央アジアでは、中国の「一带一路」計画（BRI）が着実に進展し、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンで数十もの新たな輸送およびインフラ建設計画が始まりました。この地域では中国 - ロシア間の対立が拡大するとの予測がありましたが、それに反して実際には、北京とモスクワの関係は改善しました。カザフスタンとキルギスが加盟している BRI とロシア主導の「ユーラシア経済同盟」を通じて、両国は貿易と投資に関する枠組み合意に近づいています。2018 年 6 月の上海協力機構（SCO）の青島サミットでは、中国、ロシア、中央アジアの共和国の間に関心の収束が示されました。

ウズベキスタンの宥和政策、BRI に先導された投資の拡大、およびロシアの緩やかな景気回復は、中央アジア諸国の堅調な経済業績に貢献しました。各国

を合わせた 2018 年の経済成長率は 4.6%に達すると予想されています。上昇傾向は中期的に継続するとみられており、年間平均 4.1%です。

トルクメニスタンは他の諸国と隔絶していましたが、ガス価格の崩壊による金融危機を経験。そのための物価上昇や食料不足、失業に対する自然発生的な抗議の情報が、年間を通じてこの閉鎖的な国から外部に流れ出しました。ロシアの独占体ガスプロムは 2019 年 1 月 1 日にトルクメンのガス購入を再開するでしょう。それはたぶん苦闘するベルディムハメドフ大統領への命綱になるでしょうが、しかし構造的な経済改革がなければ、一時的な休息しかもたらされないかもしれません。

キルギスとタジキスタンも、2018 年に国内の不安定に対処しなければなりませんでした。キルギスではジェエンベコフ大統領と国会で親政府派を率いるアタムバエフ前大統領の間の離間が本格的な政治危機をもたらしました。ジェエンベコフ大統領はエリートの統合と国民の団結をよびかけましたが、政府が非憲法的手段によって変更された 2005 年と 2010 年の事件の繰り返しになりかねないとの懸念を示しました。

タジキスタンは、ゴルノ＝バダフシャン自治区で深刻な問題がおきました。この自治区は中央統制に反対する長い伝統があります。ラフモン大統領は、自治区当局には麻薬密売人や他の犯罪ネットワークと共謀があると非難し、取り締まりを統括しました。イスラム国（IS）が犯行声明をだした外国人サイクリスト（自転車乗り）への攻撃やアフガニスタンとの国境での空襲を伴う小競り合いは、同国の緊張した治安状況を浮き彫りにしました。

タジキスタンにとっての朗報は、ログラム水力発電所の第一段階が完了したことです。ラフモン大統領はこのプロジェクトを国の復活と自身の道徳的探求の象徴としました。発電所が稼働を始めたことで、彼の正統性はさらに高まりました。

長年にわたる地域的緊張の緩和が 2018 年の中央アジアの最も顕著なプロセスでした。この流れが続けば、個々の国は国内問題を切り抜け、来年以降の複雑な国際関係や安全保障問題に対処するより良い立場にたつことができるでしょう。

キリル・ノルザーノフ（オーストラリア国立大学アラブ・イスラム研究センター上級講師）。

（東アジア・フォーラム」2018 年 12 月 22 日）

